

明治三十四年

十冊米榴彈砲十二冊米榴彈砲ノ比較附録

野戰榴彈砲ノ運動性ニ就テ

參謀本部第五部

編制班

1000

84

M.

1564

野戰榴彈砲ノ運動性ニ就テ

野戰榴彈砲

野戰榴彈砲ノ運動性ニ就テ
其重量ヲ幾何ノ程度ニ制限スヘ
キヤハ、教習ノ実験ヲ待テ切テ確定シ得ハレト然レ類ヲ
先ツ其目的的使用ノ方法及之ニ要求スヘキ効力ノ如何ヲ考
慮セヨリルハカラス

純粹ナル遠邁戦ニ於テハ擲射砲ニ其威力ヲ藉ルノ必要稀
ナリ而シテ野戰築城ノ進歩セル今日野戰ニ於テ屢起ルヘ

キ陣地ノ攻守ニ於テハ野山砲ノ以テ之ヲ攻撃ヲ準備
スル能ハス又敵ノ攻撃ヲ阻害シ難ク茲ニ擲射砲ノ參與ノ

待テ始メテ其目的ヲ達シ得ヘキモノトス野戰榴彈砲ノ制

定メ即チ之ヲ為ノ其必要ヲ認テタルモノニシテ其使用

ノ方法ニ至テモ亦野山砲ト自ラ其趣ノ異ニ人知ハ自然

ノ理替ナリ

野山砲ノ性質タルヤ野戰ニ提起セハキ銃ヲノ戰闘ニ參與
 已得サレ可ラリルカ故ニ類心輕捷ノ動作ヲ要シ從テ其輓
 馱馬ノ負擔タル重量ニ亦一定ノ範圍外ニ出ツルヲ許サズ
 從來本邦ノ制式タル七洲未野砲ハ明治廿七八年役以前迄
 ハ砲車彈藥車等共ニ三馬ノ繫駕ヲ以テ數年間幾多ノ演習
 ヲ經過シ其運動ノ狀況如何ニ親ニテ吾人ノ實視セシ所其
 繫駕運動ノ敏速ナル幾何ノ程度ニ存セシヤ敢テ喋々スル
 ヲ遺セリルヘシ今試ニ其重量及其當時ニ於ケル各馬ノ負
 擔ナル較度量ヲ舉クルハ尤ノ如シ

七洲未野砲	全備重量	一馬ノ輓度量
彈藥車	一四三〇	三〇七五
砲車	三〇七五	五〇〇〇

彈藥車ハ其重量砲車ニ比シ稍大ナルハ砲車ヲ放列ニ着

射撃の開始は、その時期に於ては、既に後方適任の
 置。左の諸業人以給。在。之。レ。得。以。其。運動
 状況、其。中。大。ノ。關。キ。就。身。上。金。同。一。ノ。事。也。
 又。故。之。以。下。比較。シ。テ。又。レ。較。度。量。此。彈。藥。事。ノ。重。要。性
 基。ヲ。以。テ。其。ノ。上。ニ。野。戰。榴。彈。砲。ノ。具。制。定。ノ。目。的。使。用。ノ。方。法。等。野。山。砲。ノ。自。身。ノ。火
 趣。ヲ。要。シ。テ。之。ヲ。前。衛。後。衛。側。衛。等。ヲ。如。シ。軍。ノ。警。戒。群。隊。ニ。配
 属。ス。ル。ヲ。十。倍。ノ。皆。血。ニ。シ。テ。野。戰。ニ。於。テ。一。戰。役。間。ニ。參
 與。ス。ル。ノ。必。任。義。務。ノ。野。山。砲。ニ。比。ス。レ。バ。一。戰。役。間。ニ。於。テ
 此。戰。闘。間。救。ノ。通。美。益。ニ。大。ニ。鮮。少。ナル。可。レ。果。ニ。テ。然。ラ。バ。之
 三。要。ス。ル。輜。馬。ノ。負。擔。ス。ヘ。キ。輜。車。量。ハ。野。砲。ニ。比。シ。多。少。之。ヲ
 増。加。ス。ル。モ。全。戰。役。間。ニ。於。テ。馬。匹。ノ。持。入。力。ヲ。維。續。シ。シ。ム
 ル。点。ニ。於。テ。少。ク。モ。同。一。力。ヲ。謂。フ。ヲ。得。ヘ。シ。

今茲二十三冊未揃得純ヲ以テ前掲ノ野純ト比較シ一言ハ
 此所テ方々トス即テ十二冊未揃得純(六馬)一馬ノ鞭或量ハ
 三百六十八疋弱ニシテ七冊未野純(四馬)一馬ノ鞭或量ハ三
 百五十七疋半即テ僅々十疋半ノ差ヲ有スルノミ
 是ニ依テ之ヲ見ルハ免式十二冊未揃得純ヲ採用シ其擊駕
 馬數ヲ六トシハ彼未本邦七冊未野純ト畧ト同一運動ヲ有
 スルモノト認ハルヲ得ヘシ
 論者或曰從末ノ七冊未野純ハ尚其運動性ヲ増進ス
 ルニ必要ヲ認メ六馬改正ニシタルニ非ズヤト又曰四馬ヲ以
 テスルト六馬ヲ以テスルトハ其平均鞭或量ヲ同一トシハ
 六馬ヲ用スルモノ疲勞ノ度大ナリト實ニ然リ然レバ其効
 力ヲ減シテ又其運動性ヲ増進セシメヨト謂フニ在テ
 又其効力ハ依然ナリ七冊未野純(四馬)一馬ノ鞭或量ハ三

十一年式野砲一同一其運動性ヲ増進セシムルニ件ニ誰
 之ヲ對シテ異議ヲ唱ヘルモノナランヤ四馬ハ六馬ニ増進
 之ニ所以賦トシテ之ニ因ル又繫駕列ノ其數ニ關シ馬匹
 疲勞ニ同一ナラント欲セハ馬數多キモノニ向テ其力
 均輕成量ヲ減セサルハナラザルニ勿論ナリ以下一言スル
 所ナラズ
 本邦ニ於テハ木ノ一馬ノ輕成量ヲ驗定セシムコト與テ以
 テ其ニ物實ニ〇〇〇〇ニ於テ受驗スル結果ヲ掲テ以テ
 參考ニ資スルニトス

各種馬匹平均輕成量

既成ノ道路用ノ頭斜強山	強成量	中等馬	輕成量	弱馬ノ輕成量
六歲馬	一七〇	一五〇	一三〇	一〇〇
七歲馬	一八〇	一六〇	一四〇	一一〇
八歲馬	一九〇	一七〇	一五〇	一二〇
九歲馬	二〇〇	一八〇	一六〇	一三〇
十歲馬	二一〇	一九〇	一七〇	一四〇
十一歲馬	二二〇	二〇〇	一八〇	一五〇
十二歲馬	二三〇	二一〇	一九〇	一六〇
十三歲馬	二四〇	二二〇	二〇〇	一七〇
十四歲馬	二五〇	二三〇	二一〇	一八〇
十五歲馬	二六〇	二四〇	二二〇	一九〇
十六歲馬	二七〇	二五〇	二三〇	二〇〇
十七歲馬	二八〇	二六〇	二四〇	二一〇
十八歲馬	二九〇	二七〇	二五〇	二二〇
十九歲馬	三〇〇	二八〇	二六〇	二三〇
二十歲馬	三一〇	二九〇	二七〇	二四〇
二十一歲馬	三二〇	三〇〇	二八〇	二五〇
二十二歲馬	三三〇	三一〇	二九〇	二六〇
二十三歲馬	三四〇	三二〇	三〇〇	二七〇
二十四歲馬	三五〇	三三〇	三一〇	二八〇
二十五歲馬	三六〇	三四〇	三二〇	二九〇
二十六歲馬	三七〇	三五〇	三三〇	三〇〇
二十七歲馬	三八〇	三六〇	三四〇	三一〇
二十八歲馬	三九〇	三七〇	三五〇	三二〇
二十九歲馬	四〇〇	三八〇	三六〇	三三〇
三十歲馬	四一〇	三九〇	三七〇	三四〇

輓馬ノ七ノ大數或力ノ毀リトシテノ為ニハ遺跡ノ閉シ
輓馬ノ傾斜ノ度内外ノ為ニ差ニ付テ現今用ニ
輓馬ノ構造ニ亦差ナク之ノ準ニ此ヲ以テ洋馬ノ軀
ニテ亦同ノ形様ノ輓馬ノ形ニ得ルモノトス
抑モ六馬ノ以テ繫駕列ニ止野故業車流ニ在リハ一馬
輓或量ノ三百二十五斤騎兵ハ二百七十五斤以テ
限スルヲ以テ定限トスルハ從夫斯道學者ノ稱述スル所
也今野砲ノ其威力ノ増進ト馬匹ノ改良ト依テ各
國此散大隊ノ利用ニ或ハ之ヲ起過スルモノアリ至リ
繫駕馬數ヲ増加スルニ從テ一馬ノ輓或量ヲ減セリ以テ得
ル山ノ力論ニハ其ノ式ニ從テハ二割及
三割ノ用ニハ繫駕車輦ニ在リ各馬ノ疾蹄ノ同一トスル
為ニハ一馬ノ牽力ノ半量電ノ間ニ在リ閉條ニハ其ノ牽力

小計
 〃
 〃
 〃

此式三依 八八四馬ノ以テ緊駕列トスル野砲馬ノ於大砲
 或ハ三自七十懸鐵トカトス
 孤奉 七期未野砲ハ或特製砲車ヲ東車セシメテ市場合
 於テ右ノ先限以テハ較費量ヲ負擔セシメテトタリ今砲車
 一人平均六十五斤ノ重量アルモトスレバ野砲ノ重量及
 馬ノ較費量ハ左表ノ如シ

七期未野砲之車	一	五	九	九	三	五	八	七	五
今備重量	二	八	二	二	五	五	〇	〇	〇

右ノ較費量ハ廿七八年及以前ハ一五斤ノ致五ノ於テ今
 人ノ野砲ノ運動托トシテ譯シ居ルニ一五斤ノ致五ノ於テ今
 今隸ノ以テ同一ノ致五ノ於テ今六馬緊駕計車ノ重量

新式之儀式... 儀式...

Handwritten notes in vertical columns, likely a list or index.

然其... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

... 儀式之... 備... 備...

於野戰之運動。伴、多容、大故、六馬、成、臣、ア、リ、新
七野戰榴彈砲トシテ野戰集ト共一動作ニシテ、
以テ之ト牽テ同テセリトヘカ、
野戰榴彈砲制定ノ目的及使用方法等、就テ改
スルヲ止メ之ニ代フルニ現用三十一年式速射野砲ト克式
三十一年式速射野砲ト車ノ全備重量ハ一千六百四十五斤
ニシテ之ニ五名ノ砲車ヲ乗車セシメ、
九百六十斤八寸ニ昇リ克式三十一年式榴彈砲ト車ト比較スル
ニ其差僅ニ二百三十斤ニシテ、
四寸砲弱ニ過クテ速射野砲力不平地ニ於テ遠步若クハ
八、砲歩ヲ以テスル運動ノ如何ニ敏捷トシテ力ヲ知ル者亦以テ十
三、榴彈砲ノ運動性ヲ推知ルニカト察驗スルニ

今九一表ヲ掲テ各種火銃 運動性比較 參考 覽

砲	二砲車全備重量	砲車ノ重量	一馬ノ重量	砲車ノ重量	砲
克式十二珊米榴彈砲	二二〇七	一九九	三六七八	一六三一二	砲
克式十珊米榴彈砲	二一一七	一九九	三五二八	一五七七	砲
七珊米野砲(四馬)	一二七〇	一九九	三九八〇	二〇〇〇	砲
令 彈藥車(四馬)	一四三〇	一八二〇	四四九〇	四三三三	砲
三十年式速射野砲	一六四三	一九六八	三二八〇	六〇〇〇	砲
獨國十珊米野砲	一九五〇	三二五〇	一六〇〇	一六〇〇	砲
加式十二珊米榴彈砲	二〇二五	三三七五	二一〇〇	二一〇〇	砲
令 十珊米半榴彈砲	一七二〇	二八六六	一六〇〇	一六〇〇	砲
備 野戰榴彈砲ニ在リ砲車ヲ兼車トシタル必要稀有ナルハ故ニ重量ハ一砲車ノ全備重量ニ對スルモノヲ示シ野砲ハ兼車セリ砲車ノ全備重量ニ對スルモノヲ指シ					考

右ノ結果ニ依リ見ハ其効力上雲泥ノ差アルニ久シ前車
 ヲ倣統ニ全備砲車ノ重量ハ十二珊米榴弾砲二千〇二十
 五斤十珊米半榴弾砲一千七百二十斤ニシテ其差僅ニ三百
 斤即チ整駕列ヲ三駢トスルハ一馬ノ負擔スル輓曳量ノ差
 ハ僅ニ約五十斤ニ過キ又語ヲ更ヘテ言ハハ十二珊米半
 珊米半榴弾砲ハ運動性ニ於テ大差ヲク而カモ其効力ノ差
 實ニ霄壤モ只チラ日ルモアリ
 吾人カ本邦制式トシテ採用スルハ野戰榴弾砲ノ口径ハ十
 二珊米ヲ適當ナリト信ヒテ主張スル所以益炯然タルモノ
 アラン